

平成18年度実績評価事務事業進行管理表

281-789

事務事業名	青少年サービス				財務会計上の位置付け	会計	款	項	目	細目	細々目	19予算額(千円)
部等名	教育委員会	課等名	図書館			1	10	5	5	10	5	0
政策	2 地育力によるこころ豊かな人づくり				包含する細々目	1	10	5	5	10	2	49,800
施策	28 学習交流活動の推進											
実施区分	継続	会計	一般会計	環境調整会議	関連計画 条例等							
		事業期間		年度～		年度						

【Do】(1)この事務事業は次の目的を達成することを目指します。

目的の記述	対象(人や物、自然資源など)	対象の大きさを表す対象指標名と単位	対象指標の数値				
	市内青少年(12歳から22歳を対象)	12歳から22歳人口	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度	23年度以前に終了した終了年度とする		
			11959	11950			
			現状又は19年度見込	23年度又は終了年度			
目的の記述	意図(成果は何か、対象をどうかえるか)	成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位	成果指標の数値(実績・目標)				
	児童と成人のはざまの世代へ、豊かな人間形成に役立つ学習拠点施設として、資料提供を行う。	ヤングコーナー図書の貸出冊数	18目標	78000	最終目標	80300	
			18実績		19目標	80000	↑
			23目標	80100	23実績		最終目標達成年度
			18目標		最終目標		
			18実績		19目標		↑
23目標				23実績		最終目標達成年度	

(2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

手段の記述	事業の全体概要(補足説明)	具体的活動内容(やり方、手順、詳細)	活動量を表す名称・単位	活動量の値
	青少年に向けたコーナーを作り、青少年用図書を集集・提供し、青少年の読書活動を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 青少年用図書選書・発注・提供 青少年向けお便り発行 青少年向け展示 書架の更新・資料の除籍選書・処理 中・高校生向け児童書講座 高校教師と高校司書との連携事業 	<ul style="list-style-type: none"> 図書選書 お便り発行 予約数 	<ul style="list-style-type: none"> 毎週1回 2回 3931
	18年度の実績			
	19年度計画	<ul style="list-style-type: none"> 青少年用図書選書・発注・提供 青少年向けお便り発行 青少年向け展示 書架の更新・資料の除籍選書・処理 中・高校生向け児童書講座 高校教師と高校司書との連携事業 		

<金額の単位:千円>		18決算額(見込)	19予算額(当初)
事業費	特定財源		
	国庫支出金		
	県支出金		
	起債		
	その他		
	一般財源		
	事業費計(A)	0	0
人件費	正規職員所要時間	18年度 120	19年度 120
	臨時職員等所要時間		
	人件費計(B)	429	429
	トータルコストA+B	429	429

特定財源内訳や補足事項	
-------------	--

(3)この事業目的の達成は、次の上位(施策や主体の役割)目的の達成に結びつきます。

目的の記述	結果 この事務事業の施策(基本事業)の目的	上位成果指標(施策又はムトス指標)と単位	上位成果指標の数値			
	青少年の学びの機会が得られ、多様なネットワークへの自主的参画を促す。	学習活動を行っている市民の割合	現状値	38	19実績	
			20実績		21実績	
			22実績		23目標	40
	家族や職場以外で交流がある市民の割合	現状値	45.1	19実績		
		20実績		21実績		
22実績			23目標	50		

この事業を開始したきっかけ	事業を取り巻く状況の変化	事業に対する市民や議会の意見
児童でもなく大人でもないといわれる世代へ、多様な資料提供等でタイムリーに働きかけ、言葉を広げ、広い知識の獲得や心豊かな人間形成の支援を行うため平成3年に開始する。	若者を取り巻く情報メディアの急速な発達に伴い、活字文化の継承が危惧されてきている。読書を通しての人間形成や自己確立の出来る若者とそうでない若者との両極化が起きてきている。 如何に次代を担う世代に読書推進活動を行うかが課題であり、青少年に旬な情報を提供することにより図書館を身近に感じてもらい、活字文化のよさに触れてもらう。	この年代の活字離れも含め幼児教育世代からの読書活動の大切さを教育委員はじめ多くの方が提唱され、図書館への期待が大きい。

【See】18年度の振り返り

目的 妥当性 評価	この事業の意図の達成が、結果(上位目的)に結びついていますか？	(評価) 結びつく (その理由)	有効性 評価	成果をさらに向上させる余地はありますか？	(評価) 余地がある (その理由) 中学校・高等学校との連携により必要となる。
	対象の見直し、拡大、縮小の必要性はありますか？	(評価) 必要性がある (その理由) 小学校高学年から対象とすることが必要となりつつある。		廃止・休止した場合の影響はありますか？	(評価) 影響あり (その理由) 次代を担う青少年の地育力が損なわれる。
	意図の見直しの必要性はありますか？	(評価) 必要性がない (その理由) 次代を担う青少年の心豊かな人間形成に読書や活字資料は大きな影響を持つ。		他に類似事業はありますか？また統合の可能性はありますか(市以外の取組も含む)？	(評価) 類似事業なし (類似事業名、理由)
	市が関与する必要性はありますか？(市が税金を投入すべき事業ですか)	(評価) 必要ある (その理由) 青少年の健全な育成につながる事業に努めることは市が行うことである。		効率性 評価	成果を下げずに、事業費や人件費の削減は可能ですか？
			公平性 評価	受益者は誰ですか？また、負担の是非、程度は妥当ですか？	(評価) 妥当である (受益者とその理由) 図書館法で無料の原則が謳われている。

【Plan】改革改善

今後の事業の方向性	何を、いつまでにどうするのかの改革改善案
<input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的見直し <input type="checkbox"/> 別事業に統合 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	19年度はお便りの回数を1回にする。学校との連携を強化し、効果的サービスを行う。
上記の改革改善案を実施する際、想定される課題とその克服方法	

【補足事項環境側面】

(1) 環境影響評価の必要性判断	(2) 必要性な場合の実施事由
(3) どのような点に配慮し事業に取り組みましたか？	

【指摘事項】

施策マネジメント会議	
施策評価会議	
第5次基本構想基本計画推進委員会	